

事業所における自己評価結果（公表）

公表：2024年4月5日

事業所名 ふみ月チャレンジ染地

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点・改善目標等
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	9			定員10名で40㎡必要なところ、プレイルームは45.20㎡ある。また、状況に応じて男子更衣室・女子更衣室を使う等工夫している。
	②	職員の配置数は適切である	6	2	1	職員は毎日5名以上配置している為、基準（定員10名で2名）の基準以上となっている。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	4	4	1	建物自体はバリアフリーではない。玄関の段差等は療育の観点からあえてフラットにしていな。その都度、利用者にあった対応を心がけている。また、階段には滑り止めを設置している。
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	7	2	1	まだまだ不十分といえる。引き続きの課題である
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8	1		できるだけ保護者の方の意見をお聞きし、改善に努めている。療育の観点から意向に添うことが難しい場合がある為、その際は保護者の方と話し合いの時間をつくり理解や協力を得られるように努めている。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8	1		年度末の保護者会及び毎年4月にHPにて公表している。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	9			昨年度（2022年度）受審。次回は2025年度に受診予定。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	9			外部研修では特に調布市福祉人材センターの研修に積極的に参加している。また、内部研修も行い、そのうちの2回は外部から講師を招いても行っている。
適切な支	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	9			年に2回見直しをし、個別面談を行いながら個別支援計画を作成している。また、必要に応じて見直しをしたり対面や電話での面談を行っている。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	2	1	利用者の実情がそれぞれ異なる為、標準化されたアセスメントシートを使用することは現実的に難しいのが現状。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	3		それぞれが役割を担っているため、皆で立案することは現実的に難しい面があるが担当スタッフが考えたレジメを見ながら意見交換や総括等を行っている。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8	1		今年度はコロナが5類に下がり、少しずつコロナ禍以前の活動の内容に戻し、公共交通機関を使つての外出、調理、おやつ作り、もちつき等様々な活動を行った。今後も利用者が多様なプログラムを通して様々な経験ができるように考えていく。

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点・改善目標等
支援の提供	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	9			特に土曜活動では、平日に行うことが難しい（時間と体制との兼ね合いで）プログラムを行っている。また、長期休暇の際も、利用者ができるだけたくさん経験ができるような内容を考えている。 今後も充実した活動をめざすしていきたい。
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	9			集団の中で活動することが難しい場合は、集団から離れ小人数グループに分かれて個別的なとり組みを行ったりしている。必要に応じて臨機応変に活動している。
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の内容や役割分担について確認している	4	4	1	時間や体制、業務の関係で、不十分である。今後は計画のノートを見るだけでなく、職員の業務の見直しをしながら、朝の時間を確保し効率的に行う。
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	4	1	時間や体制、業務の関係で、その日に行うことは現実的に難しく、まとめて行うことが多い。
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	3	1	利用者の記録については、特に内容が不十分な為、書き方や内容については、都度確認しながら記録し検証していく必要がある。
関係機関や保護者との連携関係機関や保	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	8	1		年に2回見直しを行い、個別面談を行っている。その他必要があった際は保護者の方と直接お話ししたりお電話でやりとりを見直しを行っている。
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	8	1		できるだけそのように努めている。
	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	9			利用者によって、電話での簡単な聞き取りの場合もあるが、支援会議等が開催される場合は、施設長や児童発達支援管理責任者が参加している。
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	8	1		学校や先生と直接情報共有することは現実的に難しい面があるが、できるだけ連携したり共有できるように努めている。また、学校との連絡会には積極的に参加している。
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	6	2	1	今現在医療的ケアが必要な利用者がいない。
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	9			できるだけ連携をとれるよう考えているが、各事業所によって考え方の違いがある為、なかなか難しく不十分な場合がある。
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	9			就労先への引継ぎシートを作成し、お送りしている。また、保護者の方より希望があった場合や就労先より連絡があった際は、これまでの支援の経過を伝えたり、面談を行ったり、引き続き支援に携わっている。
㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	8		1	外部の研修にも積極的に参加し、職員一人ひとりの質の向上に努めている。	

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点・改善目標等
保護者との連携	②⑥	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	4	4	1	そのような活動を行うことは、時間や体制等の兼ね合いで現実的には難しいと考える。しかしながら、市内の中学生の職場体験を積極的に受け入れたり、近隣の方との交流の機会をつくったり、たくさんのボランティアの方にお出でいただいたりし、利用者がたくさんの方々と関わる機会を積極的につついている。
	②⑦	(地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加している	6	3		施設長が参加し理事になっている。
	②⑧	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8	1		日々の連絡帳や電話、メール、送迎時等で保護者の方とできるだけ共有できるようにしている。
	②⑨	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	4	5		必要に応じて、その都度行っている。
保護者への説明責任等	③⑩	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9			保護者会や重要事項等で説明をしている。
	③⑪	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	9			保護者から相談があった際や、こちらで必要があると判断した際は、面談の時間を設けたり、電話等で支援を行っている。
	③⑫	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	8	1		年に2回保護者会を実施。その中の1回は保護者同士が交流できるよう、グループディスカッションの機会をつくっている。日々の困りごとや学校のこと、将来のこと等様々なことを話したり共有したり情報交換できるような時間をつくっている。その他、卒会生を囲む会を行い、皆で交流する機会をつくっている。
	③⑬	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	9			内容に応じて、代表理事・施設長・児童発達管理責任者が対応することとなっている。
	③⑭	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	9			会の通信を年2～3回発行できるように努めている。
	③⑮	個人情報に十分注意している	8	1		個人情報については、職員それぞれが十分に配慮しながら業務にあたっている。また、利用者の写真や作品を外部に出す場合は、個人情報使用同意書を元を選び、必要な際はその都度保護者に確認しながら行っている。
	③⑯	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	9			利用者の方々の実状を理解しながら、また、保護者の方の性格・家庭の事情等を考え、できる限り配慮しながら行っている。
③⑰	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	6	3		調布福祉まつりに参加し、地域の方や他事業所の方との交流の機会を持つことができた。また、土曜活動で4年ぶりにもちつきを行った。たくさんのボランティアの方、近隣の方々にもご協力いただきながら、地域の方と交流する機会を設けた。	

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点・改善目標等
非常時等の対応	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	8		1	マニュアルを策定し、書類を配布したり保護者会・職員カンファレンス等で共有しているが、まだまだ不十分で全員に周知されていない。どのようにしたらきちんと周知されるか、発信の仕方を模索していきたい。
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	9			月1回利用者と一緒に防災訓練を行っている。その他保護者の方にご協力いただく引取り訓練を年2回、立川防災館での地震体験等様々な訓練を実施した。職員だけの訓練を行う必要がある。
	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	9			外部の研修に参加したり、法人内で研修を行っている。年に1度チェックリストを用いて職員の対応チェックを行っている。
	④⑪	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	8	1		今現在、個別支援計画に記載するような事例はないが、必要に応じてその都度保護者の方とやりとりをし、共有している。
	④⑫	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8	1		食物アレルギーの方については、保護者の方と連携をとりながら、食事とおやつに十分注意している。
	④⑬	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	9			都度ヒヤリハットを作成し、職員間で目を通し共有している。今後は、共有するだけでなく、事例として研修を行えるよう計画を立てていきたい。

この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。